

## 外交アネクドット 第4回

「アネクドット anecdote」とは、奇聞・逸事を意味します。この連載では外交にまつわる海外の小話を紹介します。



在米ジャーナリスト 高濱 賛

**回顧録は売れるわ、大統領  
図書館建設は始まるわ、  
で「ブッシュ復権」!**

Conan O'Brien: "President George W. Bush's new memoir came out this week. It has already sold 800,000 copies. In a related story, the Bush presidential library announced it purchased its first 800,000 books." (NBC "Late Night

Show")

「ジョージ・W・ブッシュ前大統領の回顧録が今週発売になったね。すでに80万部も売れているそうだ。その関連の話なんだけど、ブッシュ大統領図書館がその本を80万部購入したと発表しているよ」(コナン・オブライアン氏の政治風刺漫談「NBCテレビの「レイト・ナイト・ショー」より)

2期務めたものの、最後は大義名分なきイラク戦争や経済政策の失敗で「史上最低の大統領」と酷評されていたブッシュ第43代大統領が、メディアをにぎわしている。

任期中から計画していたブッシュ大統領図書館の起工式に合わせて『Decision Points』(決断の時)と題する回顧録を刊行、プロモーション

を兼ねたテレビのインタビュ어나講演旅行に大忙しだ。

発売元は、大手出版社のランダムハウスの子会社、クラウン・パブリッシャーズ。初版は150万部印刷され、発売初日の11月9日だけで22万部、うち2割にあたる5万部を電子出版が占めた。同社が出版したノンフィクション部門の初日売り上げ部数としては、2004年にクリントン元大統領が出した『My Life』(マイライフ)の40万部に次ぐ記録だという。その後、出版1週間で80万部を売り、同社はただちに35万部の追加出版に踏み切った。

**なぜ、今ブッシュの回顧録が  
飛ぶように売れるのか**

「イラク戦争突入の正当化、経済政策についての言い訳だけで、なんら新事実を暴露したわけでもない内容

は極めて陳腐なもの。ベストセラーだと騒ぐのはFoxニュースをはじめとする保守系メディアだ。保守派による大量買いがあるに違いない」(米シンクタンク「ニュー・アメリカン・センチュリー財団」のS・クレモンズ副理事長)

一方、ブッシュ大統領図書館の方は、2013年9月11日開館を目指して建設が始まった。敷地はローラ夫人の母校、テキサス州ユニバーシティ・パークにあるサザンメソジスト大学構内で、総面積は1万9200平方メートル。

カリフォルニア州シミバリーにあるレーガン大統領図書館にはかなわないが、大統領図書館としては史上2番目に大規模なものになる。図書館には「George W. Bush Institute」と命名されたシンクタンクが併設さ

れる。総工費はざっと2億5000万ドル。2009年初頭には目標額を超えて3億ドルを集めていた。

大統領図書館は、地元にとっては名誉であると同時に、観光客も訪れることからカネが落ちる。そのため招致活動も活発で、ブッシュ図書館の場合は、テキサス州の六つの大学が申し込み、結局サザンメソジスト大学に選ばれた。

もつとも同大学内には、「本学がブッシュの保守主義と一体化するよいうな印象を与えるのは問題だ」と反対する教授たちもおり、今後シンクタンクとやらで、どのような調査研究が行われるかによっては問題が起る可能性をはらんでいる。

(たかはまたとう)

